

ひまわり

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

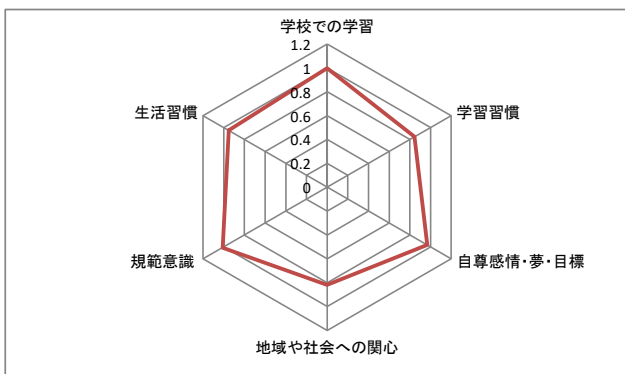
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

| 教科・区分 | 学力調査の分析(傾向や特徴) | 全国平均正答率との比較 |
|-------|---|-------------|
| 国語A | <ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率をやや下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の平均正答率より上昇した。 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。 | 下回っている |
| 国語B | <ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の北九州市の平均正答率との差を比較すると、その差は縮まった。 目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことを習慣化する必要がある。 | 下回っている |
| 算数A | <ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率をわずかが上回ることができた。また、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の北九州市の平均正答率との差を比較すると、本校は上回った。 量と測定についての理解に課題があり、構成要素や測定方法についての理解を深める必要がある。 | 同程度である |
| 算数B | <ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の北九州市の平均正答率との差を比較すると、その差は縮まり北九州市と同程度となった。 示された考えを解釈し、条件を変更して考察した数量の関係を、表現方法を適用して記述することに課題があり、立式の根拠や式の意味を考えることを習慣化する必要がある。 | 下回っている |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> 全国平均正答率を下回っていたものの、昨年度の北九州市学力・学習状況調査の北九州市の平均正答率との差を比較すると、その差は大きく縮まった。 科学的な言葉や概念を理解することに課題がある。 | 下回っている |

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



| 質問紙調査の結果分析 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 「学校のきまりを守っていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて高い。 「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて低い。家庭学習の習慣化を図る必要がある。 「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の項目では、肯定的に回答した児童の割合が全国と比べて低い。教科等の学習において、地域に目を向けた活動や教材を開発したり、地域行事の紹介や参加の奨励を働きかけたりする必要がある。 |

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- 1単位時間の学習の充実
 - ・ 学力向上研修会を開催し、授業改善に向けた5つのポイント(①学習規律の確立 ②めあてとまとめの板書 ③発問の工夫 ④話し合う活動と書く活動の充実 ⑤振り返りの時間の確保)についての共通理解を図った。
 - ・ 家庭学習の取組についての共通理解を図り、全校で実施する。
- 学力向上のための特設時間の実施
 - ・ 朝自習と朝の裁量時間で、全校一斉に帯取りの「鴨生田タイム」を設定して取り組む。(水～金)
 - ・ 放課後の補充学習を抽出児を対象に取り組む。(3年生対象の「放課後教室」、4～6年生対象の「ひまわり学習塾」)

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習への働きかけ
 - ・ 学校通信等で、家庭学習の重要性を啓発するとともに、家庭学習の時間を10分×学年+10分とし、その時間につり合う課題を与えるとともに、家庭学習への取り組み方の指導を継続して行う。
- 全国学力・学習状況調査の結果、及び分析内容の保護者への周知
 - ・ 学校通信、学校ホームページで発信する。